

○吉沢章子委員 私は、一問一答で、1つ目として、環境と観光の多摩区をテーマにした多摩区のまちづくりについて、これはまず市長と、また、生田緑地ビジョンについて総合企画局長に、商店街振興について経済労働局長に、登戸土地区画整理事業についてまちづくり局長に、生田緑地周辺の道路整備について建設局長に伺います。大きな項目の2点目といたしまして、環境モデル地区の提案について環境局長、まちづくり局長に一問一答で伺いたいと思います。

では、環境と観光の多摩区をテーマにした多摩区のまちづくりについて。この質問は私の多摩区愛を貫いて伺いたいと思いますけれども、平成22年度予算における多摩区の投資的事業の合計は170億1,366万6,000円であります。川崎区が330億円余、中原区は190億円余に次いで第3番目に高い数字であり、ことしは多摩区が輝くと市長が述べられている根拠の一つであるかと思えます。市長は、川崎市長として8年間、川崎市を慈しんでこられました。きょうは幸区の方もいらっしゃると思いますが、各区それぞれに思いがあると存じますが、住民でもある多摩区への市長の思いについて伺います。

○阿部孝夫市長 多摩区への思いについてのお尋ねでございますけれども、川崎市長でございますので、市長といたしましては常に川崎市全体の持続的な発展と、日本、そして国際社会の中で川崎市がいかに貢献し発展していくかについて一番関心を持っているところでございます。ただ、一個人としましては、長年にわたって暮らしております多摩区は日常生活を送る場として身近に感じており、愛着を持っております。今後多摩区では、平成22年度から平成23年度にかけまして、多摩スポーツセンターのオープン、あるいは岡本太郎生誕100周年記念イベントの開催、藤子・F・不二雄ミュージアムや新しい青少年科学館の開館など、国内外から注目されている事業が相次いで実施されますことから、多摩区が輝くものと考えておりますけれども、同時に、こうした動きは、川崎市全体のさらなる魅力の発信につながっていくものと考えているところでございます。以上でございます。

○吉沢章子委員 御答弁ありがとうございました。市長の思いを語っていただきました。川崎市の持続的な発展と国内外を問わず、いかに貢献していくかが市長としての関心事であるとのことであります。私自身の政策のポリシーはCSRでございます。究極は、一人一人がみずからの責任において、可能な限り、いかに社会的な貢献ができるか否かが、持続、成長できるか、もしくは停滞、破滅してしまうかのかぎであると考えております。貢献による成長戦略で自立都市を目指すという方向性においては、私は同感できるなど感じました。また、多摩区には愛着があるとのことであります。思いを形にするのが私たち政治家の仕事であり、行政の役割でもございます。市長は3期目を迎え、みずからの政策の総仕上げをこの4年間でなされるわけでございますけれども、多摩区においても禍根のないよう、しっかりと思いを形にさせていただきますことをまず要望させていただいて、以下、各局長に伺ってまいります。

まず、総合企画局長に伺います。私は常に都市経営の視点でまち全体を俯瞰し、明快なコンセプトのもとに特性を生かしたまちづくりをすべきであると申し上げてまいりました。そして、総合企画局がその陣頭指揮に立ち、現場の指揮者としては民間の有識者を据えるべきであるとの提案をさせていただきました。結果、今年度から公園緑地まちづくり調整室が新設され、都市公園を核としたまちづくりが総合企画局主導で動き出しました。また、民間有識者のコンダクターも、等々力、生田緑地ともに涌井史郎先生に御就任いた

だいて、現在進行しているところでもございます。生田緑地ビジョン策定に当たり、涌井先生を座長に現在まで3回策定検討委員会が開催されておりますけれども、その成果について伺います。また、今後どのように取り組んでいくのか、あわせて見解を伺います。

**○三浦 淳総合企画局長** 生田緑地ビジョンについての御質問でございますが、生田緑地ビジョンは、生田緑地にかかわるさまざまな主体が共通の思いを持って活動や事業を進めていくことができるよう、だれもが共有できる生田緑地の目指す将来像を示した構想として策定をするものでございます。ビジョンの策定に当たりましては、涌井史郎桐蔭横浜大学特任教授を委員長として、自然環境や商業観光、文化芸術など幅広い分野の学識経験者、地域代表、公募市民で構成いたしました生田緑地ビジョン策定検討委員会を設置して検討を進めております。ビジョンでは、豊かな自然、文化、人、まちがともに息づき、緑がつなげる持続可能な生田緑地の実現を生田緑地の目指す将来像として掲げ、自然環境の保全、育成や緑地内施設の魅力の向上、また、横断的、効率的な管理運営手法や登戸・向ヶ丘遊園駅周辺を初めとした北部のまちづくりとの連携、さらには、町内会・自治会、市民団体、企業、NPO、大学など、多様な主体との連携や緑地全体としての一体的な情報発信などの課題について検討を始めたところでございます。また、北部のまちづくりとの連携につきましては、生田緑地と周辺地区における関連施策や事業などと整合を図りながら、周辺のまちづくりと連携した一体的な取り組みを進めてまいりたいと存じます。

今後の取り組みについてでございますが、この3月10日には1回目の市民懇談会を開催し、多くの方々から市民意見を伺うとともに、委員会での検討を進めることによりまして、この夏ごろには生田緑地ビジョン素案を取りまとめ、パブリックコメントによりまして幅広く市民の方々からの御意見を伺い、平成22年度末を目途に生田緑地ビジョンを策定してまいりたいと考えております。以上でございます。

**○吉沢章子委員** 平成22年度予算、歳出の2款4項1目総合企画費において、東口ビクターセンター及び西口サテライトの設計費1,000万円が計上されております。生田緑地全体のデザインコンセプトをきちんと定めて、建物やサイン、また、ベンチなどのストリートファニチャーなどについて、個性を生かしながらも、他施設と融合した一体性のあるデザイン管理を要望いたします。生田緑地の価値を高め、ビジョンをハードの面であらわすこととなりますので、よろしく願いしたいと思っております。あわせて、一からやり直しとなった生田緑地ゴルフ場のクラブハウスの建てかえについてですけれども、パークマネジメントの視点を持ちながら、生田緑地内の施設としてのあり方を関係局とともに御検討いただくことを要望させていただきます。

また答弁では、周辺のまちづくりと連携し、一体的な取り組みを進めるとのことでございます。私はチームであることが戦力であると考えております。行政は縦割りの枠を超え、一つの目的を達成するために協力を惜しまない組織となれるかどうか、また市民も、足を引っ張り合ったり、市民意見の名のもとにみずからの権利だけを主張する利己主義に走らず、お互いの存在を尊重し合える度量を持てるかが、多摩区が千載一遇のまちづくりのチャンスにおいて成功するか否かのかぎであると考えます。総合企画局はその指揮者として、さらに腹をくくって取り組んでいただきますように御要望申し上げます。

次に、商店街振興について経済労働局長に伺います。川崎市商業振興ビジョン策定に当たっては、我が党の代表質問で何度も取り上げてまいりましたけれども、市域の商店街を

きめ細かに歩き、商店の皆さんと触れ合いながら商業振興ビジョンを策定されたことは一定の評価をしたいと思えます。多摩区においては、昨年、登戸東通り商店街を軸としたイベントやエリアプロデュース事業の取り組みなど振興策を講じてきたところでありますけれども、活動と成果及び課題について伺います。また、観光の目玉として生田緑地ビジョンとの整合は必須であり、今後具体的な戦略が求められると思えますが、あわせて見解を伺います。

**○平岡陽一経済労働局長** 商店街の振興についての御質問でございますが、本市では、社会経済情勢や商業を取り巻く環境の変化に対応するため、昨年3月に川崎市商業振興ビジョンを策定し、新たに商業集積エリアの活性化、地域課題解決による新たな商店街活性化及び魅力あふれる個店の創出の3点を施策の基本的視点として位置づけるとともに、商店街の実態、立地特性などに合わせて5つの商業集積エリアに分類し、商業者の方々の創意工夫を積極的に支援することにより、本市商業の活性化を図ることといたしております。

初めに、多摩区内におけるこれまでの活動と成果についてでございますが、登戸東通り商店街では、平成20年3月にエブリデイ・E C O宣言を基本コンセプトとした活動指針が川崎市商店街連合会と本市の支援により策定され、この活動指針に基づき街路灯のLED化を促進する商店街エコ化プロジェクト事業に取り組み、商店街の電気料の負担軽減を図るとともに、地球環境に配慮したエコロジー型のモデル商店街の実現にも努めているところでございます。また、地域コミュニティの核としての活力ある商店街を形成するために、登戸東通り商店街が主体的に実施しているイベントであるわくわくナイトバザールがこのたび商店街振興への寄与などを評価するために新たに設けた商業振興関連事業合同審査会におきまして、50%補助となるA評価を獲得いたしております。さらに、多摩区商店街連合会及び登戸・向ヶ丘遊園地区の商店街では、継続的な専門家の派遣を通して、商業者みずからの発意や創意工夫などを支援するエリアプロデュース事業を活用して、かわさき農産物ブランド品である菅ののらぼう菜を使った新商品の開発や地域住民に携帯電話を利用したメール配信の企画など、商店街の活性化に努めているところでございます。また課題といたしましては、観光の拠点を生かした個性ある商業集積地の形成に向けて、観光地としての話題性や注目度の集まる機会をとらえ、イベントなどによる情報発信やまちの存在感のPRを強化していくことに加え、区画整理事業などの市街地開発を新たなまちづくりの契機として、将来を見据えた魅力優位な商業集積地の形成など、まちづくりと連動した商業振興を図っていくことが必要であると考えております。

次に、生田緑地ビジョンとの整合についてでございますが、生田緑地につきましては、岡本太郎美術館や民家園など、本市の観光資源として多様な魅力を有しており、これまでも川崎日和りなど観光パンフレットや案内マップにより観光情報を発信する中で川崎の魅力を知っていただくとともに、名産品や魅力ある個店の情報を紹介するなど、観光振興による地域経済の活性化に努めてまいりました。今後とも、平成23年秋の開館が予定されております仮称藤子・F・不二雄ミュージアム等、観光資源を生かした集客促進を図ることによりまして、関係局との連携のもと、観光を通じた商業の活性化を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

**○吉沢章子委員** 登戸東通り商店街のわくわくナイトバザールには何度か伺っておりますけれども、このところ、回を重ねるごとに非常に活気ができているなど感じておりました

ので、よい成功事例になればいいなと思いますし、A評価は納得できるところであります。登戸土地区画整理事業が進むにつれて周辺の商店街も様子が変わってきておりますが、答弁では、観光の拠点を生かした個性ある商業集積地の形成に向けて、まちづくりと連動した商業振興を図り、観光を通じた商業の活性化を図っていきたいとのことでありました。その方向で今後も取り組みを進めて、先ほどのような成功事例をもとに、さらにエリアを拡大していただいて、観光拠点である生田緑地を共通言語として、多摩区全域の商店街が連携できる仕掛けづくりをしていただきますように要望させていただきます。

次に、登戸土地区画整理事業についてまちづくり局長に伺います。平成22年度予算では、10款3項5目登戸地区土地区画整理事業費は25億298万1,000円であり、昨年度19億4,024万3,000円に比べて5億6,273万8,000円増となっております。仕分けされずに済んで、ほっとしておりますと同時に、予算措置とともにさらなる進捗が望まれるところでありますけれども、現在の進捗状況と今後の見通しについて伺います。また、都市計画道路1号線・3号線周辺はまちづくりの目鼻がついてまいりましたけれども、2号線周辺についての課題と取り組みについて伺います。さらに、街並みづくりや商店街との連携については今までも取り組んでこられましたけれども、今後多摩区のコンセプトとして、生田緑地ビジョンとの整合、連携が必要であると考えますが、あわせて見解を伺います。

**○飛弾良一まちづくり局長** 登戸土地区画整理事業についての御質問でございますが、初めに、進捗状況についてでございますが、現在仮換地指定率は約57%、使用を開始した宅地面積の率は41%で、今後とも早期完成に向けて権利者の方々との合意形成を精力的に進めてまいりたいと考えております。都市計画道路2号線についてでございますが、登戸土地区画整理事業におきましては、これまで都市計画道路1号線、3号線の整備を優先に行ってきたところでございますが、都市計画道路2号線周辺は登戸地区の中でも建築物の密集度が特に高い地区でございますが、これまで以上にきめ細かい対応が必要と考えておりますので、来年度からその整備手法について検討に入りたいと考えております。

次に、生田緑地ビジョンとの整合、連携についてでございますが、事業区内では、現在3地区において商店街や町会が主体となって、建物の共同化、協調化等のルール案策定に向けて活動が進められており、行政側といたしましても、登戸地区の活性化のため、積極的に支援、協力を行っているところでございます。登戸地区は生田緑地の玄関口の一つであり、多摩区の地域生活拠点でもございますので、生田緑地と連携を図れる地区として、地区の方々の活動の成果を取り入れながら、まちの活性化に寄与してまいりたいと考えております。以上でございます。

**○吉沢章子委員** 都市計画道路2号線周辺については、来年度から整備手法の検討に入るとのことでございますけれども、密集度が高い上に、御商売されている方も多く、さらに難易度が上がる地域でございます。しっかりと戦略を立てて臨んでいただくことを要望させていただきます。また、ハード系まちづくりのプロとして生田緑地ビジョンとの整合、連携による多摩区の総合的なまちづくりの実現に向けて、今後も主体的に取り組んでいただきますよう、あわせて要望させていただきます。

次に、生田緑地周辺の道路整備について建設局長に伺います。生田緑地の核施設とも言うべき藤子・F・不二雄ミュージアムは、平成23年秋にオープンです。以前も伺いましたけれども、生田緑地の入り口である稲生橋交差点の渋滞はいまだに解消されておられませ

ん。基盤整備は、まちづくりの基本中の基本であります。平成23年秋は一つのリミットであると考えますが、建設局長に見解を伺います。あわせて、環境に配慮した道路の取り組みとして透水性舗装がありますけれども、多摩区での実績について伺います。また、稲生橋は橋であります。橋の長寿命化に取り組むアセットマネジメントの進捗状況について、あわせて見解を伺います。

**○齋藤力良建設局長** 稲生橋交差点等についての御質問でございますが、稲生橋交差点は、本市の骨格を形成する幹線道路である県道川崎府中と向ヶ丘遊園菅生線が交差する大変重要な交差点でありまして、昨年12月に交通量調査を実施し、現在調査結果の解析や渋滞状況などの分析を行っております。本交差点は二ヶ領本川に隣接していることから、物理的な構造改良については、河川管理者との協議など大変難しい課題がございます。しかしながら、平成23年度には藤子・F・不二雄ミュージアムがオープンすることから、本交差点における渋滞の緩和に向けた方策につきまして、引き続き交通管理者など関係機関と協議を行い、課題解決に向けて積極的に取り組んでまいります。

次に、環境に配慮した道路の取り組みについてでございますが、本市では、地下水の涵養や街路樹の育成等に資するため、道路補修時や改築時に合わせて、歩道部に透水性舗装を実施しております。平成20年度の多摩区における施工実績でございますが、県道川崎府中などにおいて約1,840平方メートルの整備を実施しております。次に、橋梁のアセットマネジメントについてでございますが、老朽化した橋梁が増加する中、従来の事後的な補修から予防保全的な維持管理へと転換することにより、効率的な維持管理を進め、費用の縮減や予算の平準化を図ることが求められております。対象となる本市が管理する橋梁は、国の基準に基づく延長15メートル以上で鉄道等をまたぐ121橋でございます。重要度や点検結果に基づき損傷状況を考慮し、優先順位を定め、ライフサイクルコストの縮減を図ってまいります。川崎市橋梁の長寿命化修繕計画につきましては、今年度、建設局及び関係局で構成した検討委員会を開催し、学識経験者からの御意見を反映させた上で計画案を策定したところでございます。今後、本計画を広く市民の方々へ公表し、御意見を伺ってまいりたいと考えております。いずれにいたしましても、本市が今後進めていく公共建築物の維持保全に関する一元管理の動向を注視し、橋梁につきましても効率的な維持管理に努めてまいります。以上でございます。

**○吉沢章子委員** 橋については、私はずっと心配しておりましたけれども、橋梁の長寿命化修繕計画については近々公表されるということでございますので、改めてこれは伺いたいと思います。稲生橋交差点については、課題解決に向けて積極的に取り組むとの答弁でありました。生田緑地において平成23年度に整備が完了するものは、藤子・F・不二雄ミュージアムを初め中央広場、青少年科学館、西口サテライト、東口ビジターセンターなど、メジロ押しでございます。平成23年はやはり一つのボーダーではないかと思っておりますので、平成23年度を目途とした確実な解決を要望させていただいて、次の質問に移りたいと思います。

次は、環境モデル地区の提案についてでございます。地球温暖化対策の推進に関する条例が制定され、基本計画が答申されました。市は、市内最大の事業者として、温室効果ガスを2010年までに2008年度比2割減との削減目標を示しました。私は、条例の必要性を訴えらるとともに、市みずからの責務を果たすことを常に指摘してまいりましたので、いち早

くみずからの目標を表明したことは評価したいと思います。現在、環境を抜きにすべては語れなくなっております。それは当然で、地球が存続の危機であるということは、人間を含むすべての命が存続の危機であるからであります。ことしは国際生物多様性年であり、本市においても、6款1項1目生物多様性推進事業費として新規予算が467万7,000円計上されております。市長は施政方針の中で生物多様性地域戦略に触れ、環境配慮社会の形成に向けた取り組みを進めるとされております。私は建築家という立場で、建築物、道路、構築物、水路の活用など、環境配慮型の都市のあり方を提案してまいりました。環境問題は多岐にわたり、切り口も、メニューも星の数ほどあります。だからこそ、環境技術で国際貢献をうたう本市として、市内事業者や市民を巻き込み、さまざまな実験を兼ねたワンパッケージで環境問題に取り組める環境モデル地区をつくることを提案させていただきます。課題である見える化や啓発活動にもつながり、環境と経済の好循環を目指す上でも効果的であると考えますが、環境局長に見解を伺います。

○寺岡章二環境局長 環境配慮型の都市についての御質問でございますが、低炭素型社会の構築へ向け、環境配慮型のまちづくりを進めていくことが重要でございますことから、地球温暖化対策推進基本計画にかかわる審議会答申におきましても、低炭素都市づくりが基本施策の一つとして掲げられたところでございます。現在、地域のモデル的な取り組みとして、JR川崎駅東口につきましては、関係局において、太陽光発電設備の設置、LED照明、光触媒や高反射屋根材の導入など、環境技術を生かした環境配慮の取り組みが進められております。低炭素社会の構築へ向け、このような取り組みを初め、さまざまな主体が環境に配慮していく仕組みが都市の営みに組み込まれていくことは、市民の啓発活動にもつながりますことから、環境と経済の調和と好循環を推進していく上で重要なことと考えているところでございます。今後、環境審議会の答申を踏まえ、地球温暖化対策推進にかかわる基本計画及び実施計画を策定していく中で、関係局とも協議を重ねてまいります。以上でございます。

○吉沢章子委員 御答弁ありがとうございます。市は公共建築物ではCASBEE川崎などの取り組みを進めているところですが、温室効果ガス排出量が増加傾向にある民生部門において、住宅系は大きなかぎを握るところであります。

一つの事例として、住宅供給公社でも環境配慮の一環として建築物の長寿命化に取り組んでいるそうですが、その取り組みについてまちづくり局長に伺います。あわせて、例えば環境モデル地区の選定に当たり、公社の管理する建物や市の公共建築物などをコアにしたエリア設定も可能であると考えますが、見解を伺います。

○飛弾良一まちづくり局長 環境配慮への取り組みについての御質問でございますが、初めに、川崎市住宅供給公社の取り組みについてでございますが、現在、川崎駅西口地区の大宮町F街区に建設予定の共同住宅の計画に当たりまして、川崎市建築物環境配慮制度、いわゆるCASBEE川崎による環境性能の評価を受けております。加えて、長寿命化の試みといたしまして、予防保全修繕を促す支援システムの導入により、計画的で効率的な維持管理に取り組むとともに、共同住宅では、川崎市内で初めてとなる長期優良住宅の認定の取得に向けて取り組んでいるところでございます。次に、環境配慮型のまちづくりについてでございますが、本市といたしましては、川崎駅東口駅前広場再編整備における環境配慮を初め、教育施設や福祉施設等への太陽光発電や屋上緑化など、可能な限りの取り

組みを進めているところでございます。今後も市内において、先導的に環境技術を活用した取り組みを進めることは大変重要であると考えておりますので、関係局とも連携し、拠点整備等を進める中で民間活力を生かしながら、一定の区域において積極的に取り組むことも必要と考えているところでございます。以上でございます。

○吉沢章子委員 御答弁では、川崎市内で初めてとなる長期優良住宅の認定の取得に向けて取り組まれているということで、これは鋭意進めていただきたいなと思います。平成22年4月から改正省エネ法が施行されます。新築の延べ床面積が300平方メートル以上の建築物も対象になるなど、ハードにおいてもますます環境配慮が求められ、同時にビジネスチャンスも生まれてまいります。環境局長は条例の実施計画等を策定していく中で協議したい、また、まちづくり局長は民間活力を生かしながら一定の区域において積極的に取り組むことも重要であるとそれぞれ答弁されました。前向きな姿勢を評価するとともに、今後の取り組みに期待をさせていただきたいと思います。私もまた、勉強して提案をさせていただきたいと思います。

最後に、市長に要望申し上げます。経済と環境、市と市民のグッドサイクルを具現化する環境モデル地区をぜひ実現していただきますよう要望させていただきたいと思います。以上で質問を終わります。